

THE 8th

MEDIA UNIVERSAL DESIGN COMPETITION

2015年 2月

日	月	火	水	木	金	土	日
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11 建国記念の日	12	13	14 バレンタインデー	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28		

色弱の人に聞いてみよう

赤と緑が一緒に使っていると区別が付きにくい…

第2色覚障がいの方の見え方 → 赤と緑が茶色っぽく見えます。

2015年 2月

日	月	火	水	木	金	土	日
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11 建国記念の日	12	13	14 バレンタインデー	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28		

赤と緑を見分けるのが難しい人もいます。赤と緑を一緒に使うのは控えよう。

第8回 メディア・ユニバーサルデザインコンペティション 受賞作品集



たまご
egg

皮膚・粘膜症状

- じんましん
hives
- かゆみ
itch
- くちびるの腫れ
swelling of the lips
- 目の充血
bloodshot eyes

薬を飲ませて下さい。

Please give him (her)
the medicine.



審査委員長 東京大学分子細胞生物学研究所

脳神経回路研究分野
准教授 伊藤 啓

全日本印刷工業組合連合会 教育・研修委員会では、2014年12月に開催いたしました「第8回メディア・ユニバーサルデザイン (MUD) コンペティション」におきまして高い評価を得た作品を、受賞作品集として冊子にまとめました。

今回は全国から242点（一般部門：91点、学生部門：151点）と多数の作品の応募をいただきました。これらの作品については審査会で厳正なる審査が行なわれ、全20点の受賞作品が決定いたしました。

それぞれの受賞作品には審査委員長・伊藤啓氏による講評を掲載していますので、メディア・ユニバーサルデザインについてさらに深くご理解いただくためのツールとして活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本コンペティションの趣旨にご賛同いただきご後援・ご協力を頂戴しました官公庁・企業・団体の皆様、および作品のご応募を頂戴しました皆様、審査会にご参加いただきました審査委員の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

全日本印刷工業組合連合会
会長 島村 博之
教育・研修委員会
委員長 土屋 勝則

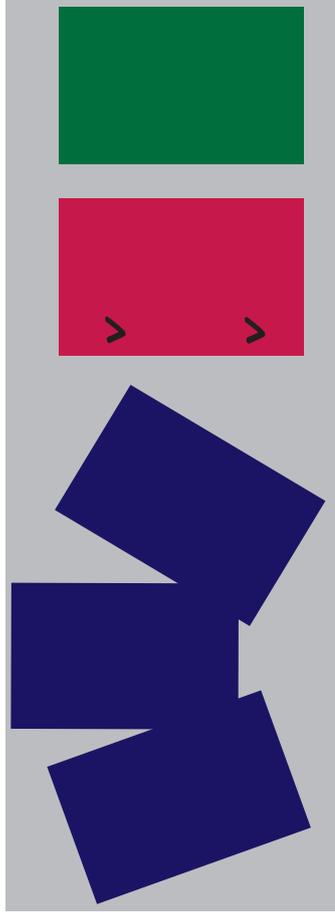
メディア・ユニバーサルデザインコンペティションも8回を迎え、多数の応募作品が集まりました。さまざまな印刷物やパッケージをさまざまな利用者に配慮して分かりやすく制作するというメディア・ユニバーサルデザインの基軸の部分では、細かな配慮がなされた良質な作品が非常に多かった。コンペティションという性格上、単に完成度の高い作品よりも、新しい視点を切り拓くような作品の方が賞に至りやすい傾向があるため、こうした作品にすべて賞を出すことができないのは心苦しい面がある。全体のレベルが毎着実に向上していることは、非常に嬉しく感じている。

ここ数年のトレンドとなっている防災関連や外国人への情報提供関連では意欲的な作品が多く、優秀賞の多くがこの分野であった。内容も、初期のような観念的なものから、目的を明確に見据えたリアルなものへと変化し、実用性が増している。東日本大震災後に重要視されるようになった「災害に強い社会づくり」、また2020年のオリンピック/パラリンピックを見据えた「外国人に優しい社会づくり」に向けて、メディア・ユニバーサルデザインが果たせる役割は大きい。今後ぜひ、こうした分野の意欲的な作品を期待したい。

学生の部の経済産業大臣賞受賞作品のように、外から分りにくいアレルギーや病気などを持つ人が、自分が配慮の必要な人間であることを周囲にさりげなくアピールできるような仕組みを提案すること、またそういう仕組みの存在を社会に啓発することも、メディア・ユニバーサルデザインが社会に果たせる重要な分野である。啓発活動というものは、もともと関心がある人にはメッセージが届きやすいが、もともと無関心な人には啓発活動の存在にすらなかなか気づいてもらえないというジレンマがある。一般の部の経済産業大臣賞受賞作品のように、難しい細やかな配慮の技術を開発者が薄い人にも分りやすく伝える手法の提案は、この意味で非常に意義がある。

学生の部では、今回初めて高校生の作品が受賞した。メディア・ユニバーサルデザイン教育検定試験を中学生が受験しているというニュースもある。メディア・ユニバーサルデザインの概念が若年の人にも広がりを見せているのとはとても心強い。ただ一方で、昨年から続く傾向であるが、学生ならではの、実験的で「弾けた」内容の提案が全体としてあまり多くなく、小粒になっていたのは残念だ。もっとガンガン行ってほしいと思う。一般の部も、従来の枠を越えた新しいものの応募があまり多くなく、新しい手法を提案する作品でもコストや実現性の詰めが甘いものがあった。学生の場合にはアイデアだけの一発勝負で良いが、一般の場合は、やはりプロとしての作品の完成度にも期待したい。

メディア・ユニバーサルデザインコンペティションでは、さまざまな分野の作品を幅広く集め、その中から分野にとらわれずに良いものを選ぶという観点から、募集時に分野やテーマを特に設定してこなかった。これはバラエティに富んだ作品を集められるというメリットがある一方で、応募者にとっては、どのような作品を出したらいいのかイメージしにくいというデメリットもある。分野別の募集やテーマ設定をどうするかは、今後検討していきたい。



工夫点

食物アレルギーを持つ子どもたちが安心して外で（給食を含む）食事が出来るようにと考えたものです。自分から何のアレルギーを持っているかを提示することにより、周囲の

を持つ子どもたちへの理解を深めるという目的もあります。また、色弱の方にも見やすい明度差のある配色にしたり、ひらがなや英語で表記したり、子どもにも親しみやすく分かりやすいピクトグラムを使用するなどの工夫もしています。

審査委員長講評

食物アレルギーは時として重篤な結果を引き起こすことがあり、誤摂取による事故が後を絶たない。特に若年の児童生徒は、自分のアレルギー症状を十分に把握し、どのメニューにどのような食材が入っているかを推理して自己対処することがまだ難しいために、事故が起こりやすいため、保護者には不安がつきやすい。本作品は、①児童生徒自身が自分のアレルギー状況をよく理解し、②給食等の食事提供者が適切なアレルギー情報を提供する、という2つの目的を果たすために工夫されている。ア

大人や先生、また自分自身も注意すること、誤ってその食べ物を口にしてしまうなどのリスクを減らした際に、万が一、症状が出てしまった際の対処法なども分かるようになっていきます。給食用の「今日のアレルギーボード」では、先生も児童と一緒に確認できます。これにはアレルギー

レルギーを起こしやすい食品をカードにし、その中で自分がアレルギーを起こす食品のカードを子どもに携帯させることで、自分が気をつけるべき食品を子どもに把握させる。給食の際に、アレルギー症状を起こしうるメニューを探してマグネットボードに貼ることで、どのメニューが事故を起こしうるかを子どもと教師の両方が理解する。さらに症状の種類と緊急時の対応法を記したカードによって、適切な処置を啓発する。カードは漢字、ひらがな、英語表記によって、子どもや外国人にも理解しやすくしている。

学校等でのアレルギーの対応では、緊急時の抗アレルギー注射薬（エビ

『My Allergy』とは

食物アレルギーを持つ子どもたちが安心して外（学校の給食を含む）で食事が出来るようにと考えたものです。自分から、何のアレルギーを持っているかを前もって明示する事により、間違ってもその食品を食べしてしまうなどのリスクを減らすものです。子どもたちが自分で持つカードと、小学校の給食のためのボードとマグネットがセットになっています。

目的

- ①「アレルギー」の元になっている食物を誤って、または知らずに食べさせてしまうことを防ぐ
- ②食物アレルギーを持つ子どもの保護者も安心して子どもを外食（給食など）させられるようにする
- ③食物アレルギーを持つ子どもたちへの周囲の理解を深める
- ④幼いうちからアレルギーに対する理解を深めておく事でアレルギーを持つ子どもたちにより快適な環境をつくる
- ⑤給食での食物アレルギーに関するトラブルを減らす

対象者

食物アレルギーを持つ子ども
給食のある小学校
幼稚園、保育所など



使い方

1 「アレルギー」のものになる食物カード、を使います。（黄色のカード）

自分（またはお子さん）のアレルギーのものになる食物のカードを選んでください。



2 「症状カード」を使います。（濃いピンクのカード）

もし①で選んだ食物を誤って食べてしまった場合、どのような症状が出るのか、カードにチェックを入れてください。



3 「対処法カード」を使います。（みどりのカード）

万が一、②のような症状が出てしまった場合の対処法のカードを選んでください。



4 「緊急時の連絡用カード」を使います。（赤色のカード）

上の空欄には緊急時、すぐに連絡がとれる番号を記入してください。
下の空欄には、かかりつけ医とその病院の電話番号を記入してください。



5 最終にすべてのカードを束とめ、学校に行く際や、保護者がいない場所食事をする際などに子どもに持たせてください。

「今日のアレルギー」ボードについて

給食の献立を見て、アレルギーの元になる食品があればそのマグネットを「今日のアレルギー」ボード」に貼ります。

これで、児童も先生も一緒に確認できるので安心して食事が出てきます。ただしマグネットを貼る作業は、食物アレルギーに対する理解を深めてもらうため、子どもが行います。

★給食の際は、まためた「アレルギーカード」を机の上などに出しておきます。

- カードの特徴
- 色弱の方にも配慮した、明度差のある配色にしました。
 - 子どもにも分かりやすいひらがな、外国人の方の事も考え、英語でも表記しています。
 - 小さい子どもにも分かりやすく、また楽しくなるようなキャラクターのようなどピクトグラムを採用しました。



「被災地がつくった防災+手帳」の展開

株式会社日進堂印刷所 佐久間 信幸 (福島県)



工夫点

東日本大震災を経験したからこそ得られた知識やノウハウ（高齢者、障がい者、子ども連れ、ペット連れ、外国人などの様々な立場の方が、ス

ムーズに遊難できる知恵など）を盛り込んだ手帳です。そのノウハウをできるだけ多くの方へ伝えるために、本手帳の防災コンテンツを活用して、他の企業様、団体様などで防災ツールを作成するなど、活用の広がりを見せています。

特徴

- 1日1つ防災情報を掲載
- 表紙カバー裏面に緊急時に役立つ情報を掲載
- 手帳の裏表紙に耳マークを掲載
- ペンがなくても書ける複写式メモなど

審査委員長講評

2011年の地震で莫大な被害を受けた福島県にある企業が、実際の体験から有用な防災情報をまとめた一連のグッズである。手帳では、毎日の頃に防災ノウハウをひとつずつ提示し、1年を通じて全365個の具体的な防災知識に自然に触れられるようになっていく。また複写紙の技術を利用して、ペンがなくても指

先や硬いものさえあれば文字が書ける用紙を用意し、緊急時のコミュニケーションを図っている。防災情報をまとめたページでは、高齢者、障がい者、子ども連れ、ペット連れ、外国人などさまざまな立場に配慮して、実際の震災被害を踏まえた知恵を盛り込んだ情報を、分かりやすく提供している。

特筆されるのは、原子力発電所災害への対応に大きなページを割いていることである。原発の安全性には

さまざまな議論があるが、ひとたび事故が起これば半径数十キロに甚大な影響を及ぼすという点で、たとえ事故や火災が起きても敷地付近の同所的な影響に留まる一般の発電所や工場に比べ、原発は全く異なる性格を持つ。今後は、原発を台風、地震、火山などと同列の災害発生源として位置づけ、万一の際の防災知識をしっかりと啓発することが、原発事故を経験した我が国の責務だと言えよう。

来日最初のおもてなし 日本式トイレのお作法ポスター

杉山メディアサポート株式会社 鈴木 早苗 (静岡県)



工夫点

それと、興味の対象であるトイレに難しく失敗しやすい、しかし避けては通れない独自の進化を遂げた日本のハイテクトイレや文化を分かりやすく紹介できないかと思い、わかりやすいピクトグラムと5カ国の言葉で紹介するポスターを制作しました。また、限られた紙面では簡単な説明しかなかったため、より詳細を知り

たい方の為にQRコードより動画に誘導するという形をとりました。また、ピクトグラムをちょんまげ頭にする、背景に和紙素材を使用するなど、ステレオタイプ的な日本像で、まずは外国人の方に興味を持っていただく仕掛けもしております。

審査委員長講評

トイレは誰もが必ず使うものであるが、国によって違いが非常に大きく、他の国に旅行するとトイレの使い方に戸惑うことが少なくない。日本古来の和式便座だけでなく、最近普及している温水便座も、日本を訪問する外国人にとっては使い方が分からず、バリアになりうる。個室の

ドアをノックする中からノックし返すといった習慣も、実は日本独自のものである。本作品は、トイレの使い方を日・英・中・韓・ポルトガル語の各国語で説明したポスターである。絵と文字で示すだけでなく、QRコードでウェブサイトに誘導し、動画を提示することで、さらに詳しい情報を提供している。トイレの利用方法は、このようなポスター形式の情報

提供で啓発すると効果的であろう。今後の課題としては、QRコード自体が日本独自のサービスであり、外国人が持参するスマホ等ではすぐには使えない点だ。今後QRコードによる情報提供が増えることが予想されるので、QRコードの利用法自体を日本入国者に分かりやすく啓発する努力も欠かせない。

パラリンピックと障がい者のスポーツ

株式会社一心社 制作部 (大阪府)



工夫点

2020年東京オリンピックでも開催されるパラリンピックを視野に、パラリンピックとはどのようなものか、歴史・ルールそして沢山来日さ

審査委員長講評

2020年の東京オリンピック/パラリンピック (関係者)の間では「オリパラ」と称されている。向けてさまざまなレベルでの活動が進んでいるが、この作品はパラリンピックの啓発パンフレットである。見分けやすい色づかいと読みやすい書体や文字間隔により、パンフレット自体を見やすく作成しているとともに、本文は日本語のみであるがQRコードによって多言語版のアクセスを可

れるであろう身体障がい者の方への声かけ、介助の仕方などが分かるパンフレットを作成しました。

特徴

- 色覚障がい者の方でもカラフルで見分けやすい配色に見えるよう工夫しました。

- QRコードにアクセスすることによって多言語表記されたPDFをスマートフォンなどで閲覧できます。
- フォントはすべてUDフォントを使用し、見やすい行間、級数で制作しました。

これは、個々の日本人が非人情だというわけではなく、[介助]を試みたいとは思っていても、具体的にうしろの知らないか知らないかで、手を差し出しにくい」という面がある。喫煙マナーや携帯マナーが短期間のうちに急速に定着したように、具体的な啓発普及を行えば、今の状況は十分改善しうる。目が見えない人をどうやって手引するか、方向をどうやって伝えるか、車椅子はどのような押すかなどの情報を分かりやすく図で示した本作品のような啓発資料は、そのために非常に有効であろう。

知ってほしい色弱のこと〜学校でのカラーユニバーサルデザイン〜

東京都立工芸高校 伊藤 徳敏、木村 真子、重岡 あすか、富安 袖衣、中沢 利樹、松川 菜々 (東京都)



工夫点

本文は文章ではなく、箇条書きにして要点を簡潔につかめて読みやすいようにした。
健常者と色弱者の見え方を比較したシミュレーション写真を入れたことで、より色弱者の目線に立って理解できるようなりにした。
イラストや明るい色を多用することで、色弱に対して持ちがちな暗い印象を払拭できるようにした。

審査委員長講評

色弱の児童生徒に対して学校で必要な配慮を、啓発パンフレットの形にまとめた作品である。黒板、掲示物、運動場のライン、ゼッケン、理科の実験や家庭科の実習など、学校

ならではの問題点を、学生自身の視点から提起し、シミュレーション画像によって検討すべき課題を説明し、対応法を提案している。背景や挿し絵も工夫して、親しみやすいものに仕上げている。グラフィックデザインは、高校生のもとは思えない完成度の高さだといえる。学生自身が



工夫点

町家のくらしを体験するプログラムを紹介するリーフレットのデザイン。この種類の広報は情報量が多くなる

審査委員長講評

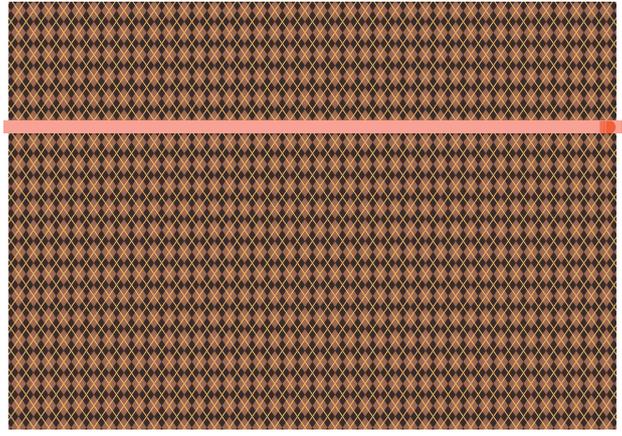
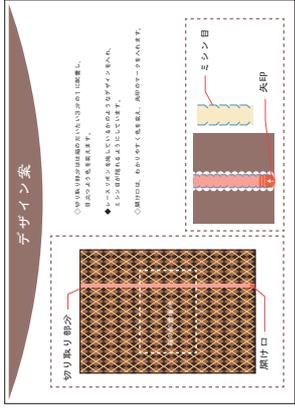
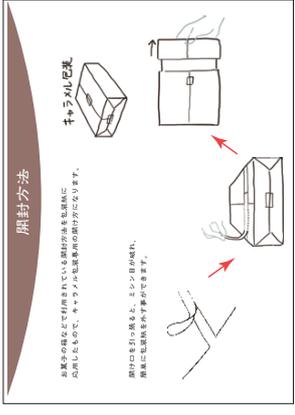
倉敷の美観地区の町家で行われた十日間の暮らし体験イベントのリーフレットで、地図、全体スケジュール、個々の町家でのイベント説明を分かりやすく説明している。高齢者の来場が多いことに配慮して、文字

ので、なるべくわかりやすく伝えるように情報を整理した。またターゲットは主に中高年であることから、フォントも見分けやすいものを使用し、ほとんどの部分を9 point以上のサイズとした。配色も日本の伝統

の大きさや配置をよく工夫している。伝統色を基調にした落ち着いた構成にもかかわらず、配色やデザインを上手に調整して、どのような色覚の人にも分かりやすいものに仕上げている。見分けやすさを追求するとコントラストの高い色づかいになって、どぎついものになるという誤解が良くあるが、この作品は、落ち着いた

色を使っているが、画面では色覚シミュレーションソフトで確認し、紙にプリントしたものはリアントールでもチェックをした。特にスケジュールや地図は、正確に情報が伝わるように何回も改良を重ねた。

色調でも見やすいデザインを作れることを十分に示している。完成度は非常に高く、大学生が作ったものとはとても思えない。観光パンフレット制作に関わるプロのデザイナーはこのレベルのものがいつも作れるようにぜひ努力していただきたい。



ミシン目の入れ方に苦戦しました。紙が薄いため、ただ切れ目を入れるだけでは途中で破れたり、きれいに切ることができませんでした。しか

うと、持って帰るときに不便である。この作品は、こういう問題を解決するために包装紙にミシン目を入れ、簡単に開けられるようにしたものである。ミシン目は、スナック菓子などの箱状のケースではよく見られるが、これを包装紙に応用し、包んだときに箱を一周するようにミシン目ができるようにしてある。さらに、包装紙の柄とミシン目の部分の模様を工夫し、ミシン目の切れ込

工夫点

ミシン目の入れ方に苦戦しました。紙が薄いため、ただ切れ目を入れるだけでは途中で破れたり、きれいに切ることができませんでした。しかも、様々なパッケージを調査、研究し、最終的に納得のいく作品に仕上げられました。

審査委員長講評

きれいに包まれた包装紙も、開くときは難しい。びりびりに破いてしまうとは、汚いだけでなく後の始末も難しい。綺麗に開こうと思っても、どこにテープが貼ってあるか分からない。テープがうまく剥がせないことも多い。プレゼントをもらったときに包みをその場で開けてしま

THE **8** th

M E D I A
U N I V E R S A L
D E S I G N
C O M P E T I T I O N

第8回
メディア・ユニバーサルデザイン
コンペティション
受賞作品集



発行：2015年5月25日
発行者：全日本印刷工業組合連合会／教育・研修委員会
発行所：全日本印刷工業組合連合会
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8
Tel.03-3552-4571 Fax.03-3552-7727
[URL] <http://www.aj-pia.or.jp/>

※本書内容の無断掲載・転載および不正使用は固くお断りいたします。
※本書によって発生した問題・トラブルに対してはいかなる場合においても
一切の責任を負いかねます。



P-00021



F-B10178
本社・本社工場